

LMcorsa

60● **H.YOSHIMOTO**● **R.MIYATA**

SUPER GT 2019 Race Report Rd.3 Suzuka GT

5月26日 | 天候：晴 | コース：鈴鹿サーキット | 路面：ドライ(路温:42度)

Final Day Summary

予選日に引き続き厳しい暑さの中での戦いとなるが20番手から
追い上げを見せたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は
完璧なチームワークによって10位で3戦連続のポイントを獲得する

Final Day

前戦の富士スピードウェイラウンドから2週間の
インターバルを経て開催されたSUPER GT第3
戦「SUZUKA GT 300km RACE」。

5月25日(土)に実施された公式練習ではコース
オフこそあったものの順調な走り出しとなった
SYNTIUM LMcorsa RC F GT3だったが、予選
ではタイヤのパフォーマンスを引き出せずに20
番手に沈み、予選Q2への進出を逃した。公式練
習の状況を考慮すると想定外で、チームは原因究



明にあたり決勝レースでの挽回を誓うこととなる。決勝レース日の26日(日)も早朝から気温
が上がり、風は吹いているもの30℃に迫る暑さとなった。300kmの決勝レース前のウォームアップ
走行は12時55分から20分間に亘って行なわれ、吉本大樹選手と宮田莉朋選手の2人が
SYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込み9周を走行。2分1秒424がベストタイムで、
GT300クラスの29台中6番手のタイムを記録して決勝レースに臨むこととなった。

14時30分には予定通りに三重県警の白バイ6台とパトカー3台が先導するパレードラップ
がスタート。翌週のフォーメーションラップを挟んで、14時38分に300kmの決勝レースの幕
が開けた。

スタートドライバーを務めた吉本選手は、オープニングラップに1つポジションを落とすが、5
周目に20番手に復帰する。その後も先行車を追っていくがパッシングポイントの少ない鈴鹿サー
キットのために順位を上げることができない。

Final Day

マシンの状態は予選のときと同様で、チームやドライバーが求める速さはなく苦しい状況となる。10周を過ぎるとラップタイムが落ち込み始め、チームは早めのピットストップを行なう戦略を採る。吉本選手をピットに呼び戻そうとするが、15周目にGT500クラスのマシンが130Rでクラッシュする。そのため、16周目からセーフティカーランとなる。21周目にレースが再開すると吉本選手



はすぐにピットに戻り、宮田選手にドライバーチェンジするとともに4本のタイヤ交換と給油を行なう。中団で争っていたライバル勢も一斉にピットに入るなかで、LMcorsaは抜群のピットワークでSYNTIUM LMcorsa RC F GT3をコースに送り出す。コースインした宮田選手は、上位陣がピットインを終えてない状況なので24番手での走行となる。インラップでタイヤに熱を入れた宮田選手は、22

周目と23周目にトップを争うマシンと遜色ない2分1秒台で周回し、先行車とのギャップを詰める。24周目を過ぎると徐々に上位陣がピットに入り、ドライバーチェンジやタイヤ交換などを行なっていく。するとSYNTIUM LMcorsa RC F GT3の順位は上がっていき25周目に17番手、30周目に16番手となり全車が1回目のピットストップを終えた34周目には14番手まで浮上する。レースが終盤を迎えるとタイヤのパフォーマンスが落ち始めて難しい展開となるが、宮田選手はしっかりとタイヤマネージメントを行ない安定したラップタイムで周回。35周目と39周目に1台ずつをパスして、ポイント圏内まであと2台となる12番手となる。40周目を過ぎるとタイヤトラブルが頻発し、トップ10を走る2台が順位を落としたため42周目についに10番手に浮上。後続からプレッシャーを掛けられるが、宮田選手は冷静にポジションを守りきり49周目に10位でチェッカーを受けた。



SYNTIUM LMcorsa RC F GT3との相性が良いコースと、チームの母体となる大阪トヨペットグループのホームコースだったため、是が非でも好成績を収めたかったLMcorsaだったが、予選から歯車が噛み合わず苦戦を強いられることになった。しかし、決勝レースは現状で持てる力を最大限に発揮しポイント圏内でフィニッシュ。次戦は昨シーズンに表彰台に登ったタイラウンドなので、上位進出が期待できる。

Team Comment



Director :飯田 章

予選から非常に厳しい状況におかれて、決勝レースもスタート後から苦戦を強いられました。レース序盤でセーフティカーが入ったために、そこでピットインする戦略を採りました。メカニックが頑張ってくれて俊敏なピット作業により、ジャンプアップができました。2人のドライバーも難しい状況の中で粘って走ってくれました。もちろん10位で満足はしていませんが、今回のパフォーマンスの中では良い順位で終われたと思っています。



Driver :吉本 大樹

大阪トヨペットのホームコースともいえる鈴鹿サーキットということと、多くのサポーターが駆け付けてくれたので良い結果を残したかったのですが、残念な順位となりました。序盤から苦しい状況で、前が詰まっていたこともありパッシングされてしまう場面もありました。セーフティカーが入ったことがチームとしては有利に働き、ピット作業で前に出られました。後半のスティントはスタートと異なるタイヤを使ったことで、ペースはやや安定し10位でフィニッシュできました。ただ望んでいる順位ではありませんし、もっとパフォーマンスを上げる必要があります。暑い中で戦えたことは次戦のタイへつながると思うので、ぜひ好結果を残したいです。



Driver :宮田 莉朋

後半のスティントを担当したのですが、吉本選手のコメントから異なるモデルを履きました。それでも終盤は厳しくなったのですが、しっかりとマネージメントをして順位を落とすことなくゴールできました。レースウィークの流れからいけば、ポイント圏内のフィニッシュは難しいと思っていたので良かったです。しかし、上位に入るにはあと一歩も二歩も足りない状況で、ベストは尽くしたと思っていますが、もちろん悔しさが強いです。チームとしては次戦に向けて多くのデータが取れたと思うので、タイラウンドに向けてしっかりと状況を整えていきたいです。

